



笹川自治振興会長 就任にあたり

笹川自治振興会会長 小林 茂和さん
(就任の挨拶要旨 平成25年4月7日)

はじめに

只今ご紹介にありましたように、笹川自治振興会の会長という、非常に大変な重責を負う事になりました。築山町内の小林茂和です。



選考委員会からの要請を健康問題もあり固持して参りましたが、受託した以上は浅学・非才ではありますが皆様の願いや要望に応えられるよう全力で努めさせていただきます。

さて、

ふる里・笹川での皆さんのご要望は何だろう。年齢や性別そして階層を超えて一致するのは、やはり「暮らしの安全と安心の確保」ではないでしょうか。

従って、**第一番目に「暮らしの安全と安心の確保」**について取り組みたいと思います。

①笹川の地区全体が土砂崩れ危険地域に指定されています。整備されたとは云え、近年のゲリラ豪雨などで土砂崩れによる災害が多く発生しています。今後は、専門的な人の意見も参考に危険予知を含めた積極的な対策を関係各所に提案または要望して長期的な展望も視野にいれて実現して参ります。

②また、防火、防犯、交通災害等については、日夜、頭の下がる想いで奮闘されています消防団員の皆さんや交通安全協会、PTA・青色パトロール隊などの関係諸団体の協力を得て効果的な遂行で、特に将来を担う可愛い子供達や災害弱者であるお年寄りを守っていきたく思っております。

③そして、有害鳥獣対策です。熊や猪が人間の生活圏を脅かしつつあります。加えて、カモシカが大量に発生すると予測されています。幸い、県や役場の支援で「電気柵」作って戴き、今年からは専門的な人で常設した笹川電気柵管理組合を設立して戴き、これらを恒久的、機能的に維持管理して人間の生活圏を守っていきたく思っています。従って、電気柵の草刈り管理等や電気柵に触れる様な立ち木伐採等にも、皆さんのご協力をお願いします。

これらの取り組みをしながら地区民の暮らしの安全・安心を確保して参ります。

第二の取り組みは……

今を充実して生きるための方策です。

地区民のコミュニケーションを深め、生き甲斐とやりがいを感じさせる取り組みです。

①地区にある伝統の4大行事(秋祭り、ふれあい体育祭、文化祭、元旦祝賀会)を最大限活用して、一人でも多くの方が集まりやすく、楽しくコミュニケーションがし易い雰囲気、思い出に残り、そして行事を通じて

達成感や絆が深まるものになりたいと思います。

そのために関係団体や皆さんの意見を参考にチョットひと工夫をした行事にしたいと思っていますので、その節は宜しくお願いします。

②今年も特産物支援事業を得ながら、関係者の創造力や生き甲斐、そして共同作業を行う中で連帯感や深い絆を醸成していきたいものです。勿論、この特産物の販売にも出来るだけ支援をして参ります。

第三の取り組みは……それらを担い執行する審議委員会の役割と活動です。

①審議委員と同時に各地区代表の町内会長さんでもあります。町内の要望や悩みなどは、先ず自分の町内会長に連絡・相談して下さい。審議委員会では地域の町内会長が知らない事態にならないよう相互連絡を密にし、一町内の問題を地区全体の問題として共有化し、審議委員全体が解決に向かうと云うスタンスにしたいと思っています。

②審議委員の皆さんは、年齢、職業、生い立ちや忙しさも違いますが、互いに腹藏なく話し合い、時には白熱した論議をする中でも仲良くして、目指す目標を同じにして行きたいと思っています。幸い、審議委員会の要となる総務部長の長井昌弘さんは、人の話に良く耳を傾ける誠実な方で、一方、利害なくはっきりと自分の意見を述べる立派な方です。この人を中心としてまとめて行きたいと思っています。そして、審議委員全体が、進む速度や汗をかく時、あるいは疲れた時に休む場所と時間も出来るだけ一緒にして、達成感や充実感も一体化していきたいと思っています。一人や二人だけで走ることなく、「全員で確実な一歩を」合言葉に活動して参ります。皆さんには、これらの姿は、時にはもどかし、もたもたしているように映るかも知れませんが、長い目で暖かく私を含めて各町内会長を育ててやって下さい。特に若い町内会長さんは、いずれ笹川の将来を担う人達ですから。

③次に情報公開についてです。審議委員会の活動や地区の問題等を幅広く「お知らせ版的な広報」等を定期的に発行し、積極的に情報を公開して参ります。幸い、これら業務に卓越した事務員(谷内さん)を迎えることが出来たので、行事予定内容の告知に留まらず、スポット的にもお目出度い事柄や珍しい事などを記事にすることもあるかと思っておりますので、取材等にもご協力をお願いします。

おわりに

地区民の安全・安心の確保や生きがいを求めて「今を充実して生きる」願いは普遍です。従って、会長や役員が変わろうとも、目標といいますが、目指す頂上は同じはずです。方法やスピード感は違うけれども、粘り強く普遍的な目標を目指して活動していく所存でございます。このためには、地区みなさん一人ひとりの「叡知と小さな汗の結晶」で、地区が住み易く、多くの人が安住できるように、皆さんの一層のご協力をお願いして、就任の挨拶に代えさせていただきます。

最後に4年間、寝食を忘れ奮闘された、前会長の竹内康博さんに惜しみない感謝の念を捧げたいと思います。

新役員の方々

()内は担務部長



左から
甲子町内会長(産業) 折谷 信祐さん(ちょうごんどん)
諏訪町内会長(経理) 小林 成彦さん(さんじよむさ)
自治振興会長(会長) 小林 茂和さん(しろべどん)
宮平町内会長(総務) 長井 昌弘さん(じんざぶろう)
中央町内会長(文化・観光) 勝田 忠温さん(ちゅうべどん)



築山町内会長 (治山土木) 深松 隆さん (でんによんどん)
盈進町内会長 (水道) 長井勝路さん (きょうごるさ)
事務員 (事務総合) 谷内久美子さん
総会模様



脇朝日町町長殿に就任の挨拶

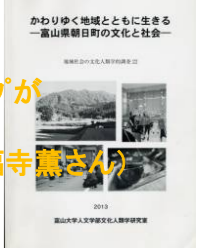


トピックス

かわりゆく地域と共に生きる — 富山県朝日町の文化と社会 —

富山大学人文文学部・文化人類学研究室の3年生13名の方々が、昨年(2012年)春から地元にとっぷりとけ込みながら朝日町の生活と文化を約1年間にかけて調査・研究をされました。

そして、その成果をA4版約200ページの本にまとめ上げられました。



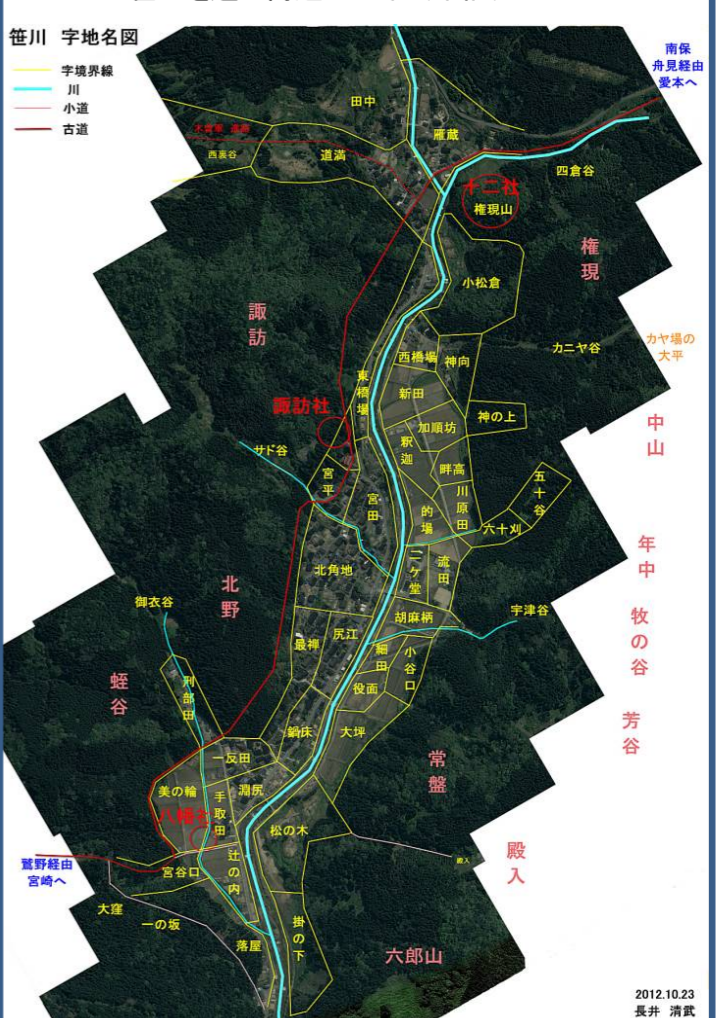
笹川関連では、

・**笹川における稲作の変遷と稲作グループが地域に果たす役割(土井冬樹さん)**
・**笹川の地神信仰のあり方と役割(東福寺薫さん)**
の二編が掲載されています。

発表会が、笹川では、2013年2月23日 築山倶楽部で、全体は、2013年2月24日 カルチャーセンター宮崎で(写真)開催され、多くの地元の方々が聴講されました。若い学生目線で調べた研究成果には、私たちが忘れかけていた地域の魅力、そして新たな発見が詰まっています。



3ページ 笹川を通る街道 ルート図(朱記)



活き活き 友愛会

旅行記



去る、4月17日~18日に恒例の旅行が行われ、笹川から36名、東京から8名参加しました。訪問先は、現在、NHK大河ドラマで放映中の【八重の桜】の舞台となっている会津若松方面で、どきも桜を満開にして迎えてくれました。

【八重の桜ドラマ館】



宴会場にて



宴会での余興



大内宿 江戸時代の町並みを再現した宿場町

あの北陸宮の父である以仁王は宇治川の戦いで戦死したと言われていますが、当地の伝説によれば、近江~越後に落ちる際にこの地に立ち寄り、この里が都の大内に風情がよく似ていると言われたことから、山本村を改め大内村となったとのこと。



塔のへつり 福島県南会津郡下郷町

河食地形の奇形を呈する好例として、国の天然記念物に指定されている。「へつり」とは会津方言で、川に迫った険しい断崖とのこと。(笹川のへつりも同語?)



訪問時期が東北の早春だったので右の様な色合いでした。左は緑豊かな時期のモノ(インターネットよりコピー)



会津 鶴ヶ城

お城の周辺は桜が満開でした。



燕三条駅でお別れの記念撮影

昭和23年 笹川小学校卒業のみなさん。楽しかった旅行、来年もまた元気でお会いしましょう。



東京笹川会

第20回 東京笹川会 総会・懇親会

笹川 2000年のロマン

B.C300 A.D370 710

縄文・弥生時代 飛鳥・奈良時代



去る5月25日(土)、東京・東天紅上野店で、第20回東京笹川会 総会・懇親会を開催しました。郷里より、笹川自治振興会の新会長 小林茂和をはじめとして5名ご参加頂きました。朝早くからお出かけ頂き本当にありがとうございました。東京会員の参加者は31名でした。



初参加の健さん、茂さん、笹川自治振興会会長と。 S**年同級生ご一同



東京笹川会 笹川自治振興会 笹川公民館 竹内宏夫 会長 小林茂和 会長 折谷隆三 館長



S**年同級生と会長 小田原から参加の節恵さん



笹川友愛会 竹内弘 会長



マドンナ 律子さん いつも舞をありがとう 諏訪町内会 出身者 きょうむの敏子さん 郷里から参加



二次会でカラオケに興じる



療養中にも係わらず 駆けつけて下さった 龍夫さん 同級生と一緒に。 一日も早くお元気に なられますよう。



長井 寿 東京都荒川区(宗三郎)
長井 清武 相模原市(清左衛門)

はじめに

豊かな自然と素朴な文化に包まれた【ふる里 ささ郷】に想いを馳せる甥と叔父。たがいの想いを語り合っているうちに楽しくなってきた、【これってロマンだね!!】と言うことになり、史実からはほど遠いものかも知れませんが、その想いを綴ってみることにしました。

1. 笹川を通る街道(今号、掲載)
出雲政権時代に大国主命が蝦夷征伐と宮崎のヒスイを得るために来ていたので、その頃に出来たと思っています。(勿論、縄文時代にもそれなりに有ったでしょう。)
2. 竹内氏、長井氏が、
いつ頃来従したのか(次号掲載予定)
奈良時代、(743年)荘園の自由開墾が認められ佐味荘が出来た頃であると思っています。少なくとも平安末期に来た、北陸宮・木曾義仲より以前です。
3. 信仰について(次号掲載予定)
自然霊崇拜、先祖霊崇拜(地神~三社)と真宗の布教
4. 越中国の歴史的不幸(今号、掲載)
(鎌倉時代~戦国時代、越中国の覇権)
宮崎城もその渦に巻き込まれました。
5. 一村一家(次号掲載予定)
笹川では【一村一家】と言う文化が育まれていた時期がありました。

生産作業の種類や地域割り(現在の町内会)など、いくつかの組があり、それらが親戚以上に助け合いながら「村からは一人たりとも生活の落伍者を出さないように相互で励まし合う体制」が築かれていました。少子高齢化が避けられない時代、笹川の福祉などを考えると、まさに先人が育んだ文化を基盤とした笹川らしい福祉活動の体制作りと活動が望まれると思っています。

1. 笹川を通る街道

1.1 大和時代の日本海沿岸

北陸地方の範囲は、新潟県から福井県まで東西におよそ400kmあり、細く長い。歴史的に古代の「越国」と呼ばれた地方を多く含み、若狭国から越後国までの範囲におよぶ。明治時代頃までは「ほろく」と読まれていた。この北陸地方の道路を指して「越路」「北陸道」と呼ぶ事もある。北陸地方は、「日本海沿岸の地方勢力」として、他の地方からは半ば独立した歴史を歩んで来た。

越国は、ヤマト王権の勢力に組み込まれると三つの領域に区分された。令制国の国府所在地を見ると、越前国は武生、越中国は伏木(高岡市北部)、越後国は直江津(上越市北部)に当たる。

この国府所在地の位置により、当時のヤマト王権の支配領域は、東は概ね新潟県の上越地方までで、それ以北は領土外(蝦夷)であった。

しかし、後に支配領域を伸ばすと、北は天陰たる鼠ヶ関(ねずがせき;山形県鶴岡市)と東は越後山脈が北陸道の北限となり、その中に越国から分離される形で出羽国が設置された。

黄金の国・平泉寺は、能登国が越前国から分離した頃に開山し室町時代末期まで巨大な宗教都市として勢力を誇った。

笹川の歴史を紐解くうえで、総合的に判断すべきは、軍事、通商、宗教であると思っていますが、古代日本で最初の全国通運ルートを開拓したのは出雲政権で軍事的には蝦夷討伐、通商的にはヒスイの勾玉類の宝石および塩の通商権、宗教的には祖霊崇拜の出雲信仰の布教であったと思われる。

また、646年大化の改新の詔に駅伝制を布く旨の記述があります、これを契機として計画的な直線道路網が全国的に整備され始め新川郡から頸城郡(青海辺りまで)にも8つの駅が出来ました。

新川郡佐味駅はどこにあったかは特定出来ませんが宮崎の常福寺遺跡あたりに置かれ、佐味荘の中心もあつたのではないかと推測しています。笹川も佐味荘に含まれていたと考えています。各駅には馬が登録されていて佐味駅では馬 8疋でした。

1.2 通商的観点

ヒスイの勾玉は宮崎・浜山(遺跡)で組織的に生産されていたことから 古墳時代以前の古代これを全国にどうやって運んだか?

路には、海路、陸路、汀道(渚道)があり、陸路には通常陸路といわゆる近道がありました。

笹川を通る通常陸路は、愛本~舟見~蛭谷から三峯、雁蔵を経由し、山伝いに、諏訪神社境内、正覚寺前、最禅坊前、北野を経由し、城山の麓を上り、宮崎のヒスイ加工地に下るルート(1ページ右下参照)が最も古くからあり、これがヒスイや黒曜石を京に運ぶ通常陸路となっていたと思います。京都向きが上、逆が下ということで、笹川のおもて向き(上)、うら向き(下)と言う表現はここから発生したモノでしょう。また、平安末期に義仲がわざわざ主要街道から離れたところに、北陸宮のための社を建立したとは思えません。京に上る主要街道に面して、また豊かなところに建立したと考えるのが道理でしょう。

安寿と厨子王の話でも分かるように、直江津から宮崎までは一連の地域だったと思います。その中でも最高の宝石であるヒスイと勾玉の商業的な意味はとても大きかったのではないのでしょうか。(宮崎以北の通常陸路は、境~大平~上路~青海。笹川を通る近道としては、木曾義仲軍が通った上路~大平~雁蔵がある。)

1.3 宗教的観点(祖霊信仰)

日本固有の信仰には、精霊信仰、祖霊信仰、首長霊信仰の三つがあります。

精霊信仰は縄文人の信仰で、山・川・風・動物・植物など、あらゆる事象に精霊が宿るとする考えで自然物や自然現象を神格化した神です。

B.C300 A.D370 710

794

1192

1336

1485

1568

1603

1868

縄文・弥生時代 飛鳥時代 奈良時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

戦国時代

安土・桃山時代 江戸時代

明治～

笹川の三社は、最初はこの種の信仰であったと思えます。獅子舞によく現れています。

祖霊信仰(出雲系)は、弥生時代中期に江南(中国長江以南)からもたらされたもので、亡くなった祖先はすべて神となり、自然現象を司り、子孫を見守るとするものです。

首長霊信仰(伊勢系)は、ヤマト朝廷によってつくられました。それは、天皇や天皇に仕える首長たちの祖先の霊は、庶民の霊よりはるかに強い力をもつとする信仰です。そこで、朝廷は民衆に自分の祖先を祀るとともに、天皇家の祖神の祭りに参加する事を命じるようになりました。

(信仰にはもう一つ仏教があります。神道は地縁・血縁などで結ばれた共同体(部族や村など)を守ることを目的に信仰されてきたのに対し、仏教は主に個人の安心立命や魂の救済、国家鎮護を求める目的で信仰されてきたという点で大きく異なります。(詳しくは次号にて))

出雲政権は祖霊信仰です。

大國主命もこの街道を通り糸魚川まで遠征して、越の国の女王として新潟県の糸魚川市辺りに住んでいた奴奈川媛(ぬなかわひめ)を強引に妻にしました。その子、建御名方神(たけみなかた)は諏訪神社の主神となりました。諏訪神社が出雲系であることの歴史的意味と考えています。

後年、木曾義仲が諏訪大社下社大祝(おおはふり)金刺盛澄(かなざしもりずみ)に命じて、この地に諏訪神社を分祀させたという。神の磐座(いわくら)として信仰(自然霊信仰)されていた背後の山(現在は諏訪山と呼ばれている)をご神体に模して建造した。また、御射山神事(みさやま)を行うなど、諏訪神社と同じような祭礼を催したなごりが地名や祭礼の日になどに今でも残されていることは皆様周知のことです。

1.4 軍事的観点

軍事的には、古代は蝦夷との戦いの最前線が、宮崎一直江津間でした。

592年 崇峻天皇の御代に阿部臣を北陸道に遣わし越後の諸国境を觀させたとある。

642年 皇極天皇(642)の御代に越後の蝦夷数千が内附してきたので、この地に有力な豪族を配し、開拓をさせながら蝦夷の防衛に当たさせた。とあります。

後年には、北陸道を通じて4項に示す越中国の覇権や木曾義仲、上杉謙信等の京への要の街道となりました。

軍隊が海路を通ったとは思えません。きっと、陸路しかも複数の山間ルートを選択したでしょう。

飛鳥時代の「佐味駅の馬 8疋」から始まり、江戸時代には笹川の名産に馬が登録されています。地名等にも馬にかかわるものが意外と多く、これが周囲の尾根伝いによく見えます。馬は軍馬、荷役馬と両方の需要があったということではないかと思えます。

軍隊が、笹川を何度も通った。しかも、軍事の要地に近かったとしたら、傍観していたのではなく、荷物運びなり、にわか武士で加勢なりで、稼いでいたのではないだろうか。

4. 越中国(宮崎城)の歴史的不幸 (鎌倉時代～戦国時代の覇権)

平安末期、1183年、木曾義仲が宮崎太郎長康に命じ北陸宮の御座所として構築した宮崎城は、その後の越中国での覇権を巡り、直接的あるいは間接的に目まぐるしい運命を辿ることになる。……

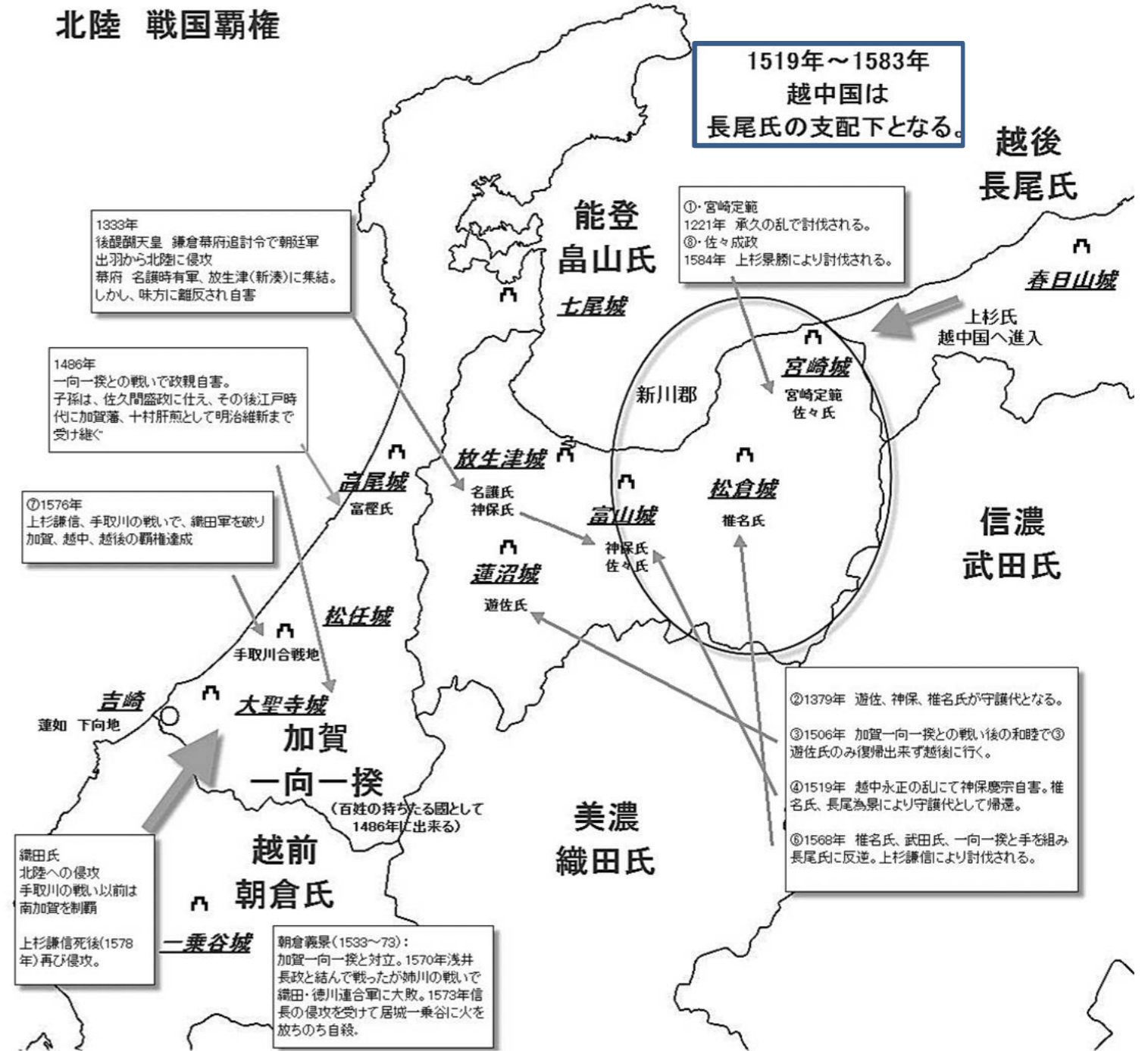
それは何かというと、守護(または守護代)にしても、戦国の実力者にしても、はたまた江戸封建時代の統治者にしろ、越中では在国の者が、国の統治の主導権を取れなかったことである。越中の歴史を見ていると、1221年承久乱後、鎌倉幕府の北条朝時が守護となり、さらに1379年畠山基国が管領斯波義将の提案により、越前と越中を交換し、越中守となったときからである。

同じ畠山家の所領である能登はその後、能登畠山氏が庶流として支配し、3代義統の時代からは守護代の統治ではなく、守護が在国して統治したのに対して、越中は畠山宗家の所領のままどおり、越中には守護が在国せず守護代が統治し、さらに畠山家の支配下にありながら、宗家の力を示すことや宗家からのコントロールがうまくできず、絶えず周りの国から干渉をうけることとなる。

この戦国期に、守護代しかない国は、下克上などにより守護代が実力者となったりして実質上の領主と変貌した所が多いのだが、越中では、実力者として戦国大名に変貌する前に、周りの国々(越後、加賀、能登)の干渉を受けたため、在国の守護代や国人が十分に実力を付けられず、その後、佐々成政などの一時的な支配もあるが、江戸時代には隣国前田家の支配を受けることとなる。

戦国時代の北陸地方は、越後国は長尾氏、越中国は神保氏と椎名氏、能登国は能登畠山氏、加賀国は一向一揆、越前国は朝倉氏が支配していた。

本能寺の変以後は、上杉景勝(春日山、上越市)、前田利家(金沢)、佐々成政(富山)、柴田勝家(福井)などの本拠地となった。



- ①1221年 承久の乱 朝廷側の宮崎定範が鎌倉幕府側の北条朝時に討伐され宮崎太郎の武将血脈が途絶えた。北条朝時が放生津(新湊)に城を構え守護となる。(後に名護と改称)
- ②1379年 畠山主家 守護となる。(上述中段も参照) 守護代: 砺波郡 蓮沼城 遊佐氏, 射水、婦負郡 放生津 神保氏, 新川郡 松倉城 椎名氏
- ③1506年 加賀一向一揆との戦い 越中の武士だけでは、一向一揆に歯が立たず、越後 長尾能景に援軍を要請。和睦後、砺波郡は一揆方が支配。神保、椎名は旧領地を回復。
- ④1519年 越中永正の乱 長尾為景、能登畠山氏と共に神保慶宗を討伐。為景 越中の守護となり、椎名氏を守護代とした。
- ⑤1560年 神保×椎名・上杉連合軍との戦い 復興した富山城主神保長職が武田、一向一揆と手を組み松倉城椎名康胤を攻める。椎名氏、上杉謙信に援軍を要請し之を討伐する。
- ⑥1568年 椎名×上杉軍の戦い 椎名氏、武田、一向一揆と手を組み上杉氏に反旗。上杉謙信、侵攻し椎名氏を追い出す。
- ⑦この後、謙信は一向一揆と和睦し、石川県手取川で織田軍を破り加賀、越中、越後の覇権達成。
- ⑧1582年 上杉×佐々・前田・柴田の織田軍との戦い 織田軍、信長の死去で撤退。
- ⑨1583年 佐々氏の侵攻で上杉氏越中国から撤退。
- ⑩1584年 宮崎城の終焉の戦い 本能寺の変以降、秀吉から離反していた佐々成政討伐の戦いが始まり、秀吉の命を受けて上杉景勝が新川郡に進入し宮崎城を陥落させた。 1586年に前田家の高島織部が入城、そして1587年には 小塚権太夫が入城し治めることとなり宮崎城を巡った攻防戦が終焉を迎えた。